

## 北区コミュニケーション・モア 5月例会

### 「NHK ドラマ デフ・ヴォイス 裏話」

－「デフ・ヴォイス 法廷の手話通訳士」に出演して  
見たこと 感じたこと－



全難聴・理事

東京都中難協・副理事長

小川 光彦 氏

眼鏡、靴、靴下もすべて用意されていた。嬉しかったことはスタッフが簡単な手話を覚えてくれたこと。

#### Q1・ロケ弁の話・エピソードについて

撮影が昼の時はお弁当が用意されていて、朝から夜までロケがある場合は2回出た。結婚披露宴の場面の時は立派なフランス料理の一皿が出てきた。撮影時間は短くて、食べないと持っていかれる。慌てて食べた。

#### Q2・情報保障について

現場には必ず手話通訳がいた。カメラの位置を変えて同じ

場面を何度も繰り返し撮影する。そのたびに手話通訳も交代。私は音声認識も使用した。一つ残念だったのが片貝弁護士の会話の場面が聞こえる人と同じよう見え、誤解されると言われたこと。しかし、中途失聴・難聴者は外見だけでは聞こえにくいことがわからないという特徴がある。そうした意味ではリアルな場面だったのではないか。

#### Q3・大変だった演技は？

畠の上で草彅さんとさし呑みする場面。バス数台に50人ほど某店へ。声がよく出なかった。姿勢も気をつけなくてはいけない。3回ほど失敗して緊張したが、草彅さんは優しく待っていてくれた。マイクの感度が非常に良いので、撮影中は絶対に歩いてはダメ。待ち時間が長かった。ビールは本物。お酒は水だった。ちなみに「NPO フェロウシップ」のセットと橋本愛さんの手話はすばらしかった。

#### Q4・弁護士さんが唯一の難聴者、その描き方にどのような考証がなされたのか？

原作・脚本があるので、監督は脚本を映像化するという考え方。おかしいと思ったところは監督に言うと直してもらえた。現役の中途失聴の弁護士に実際に会って話をうかがい、法廷現場にも行った。中難協の小谷野さん、渡辺さんに脚本を見せてチェックしてもらった。協会が初めてドラマの監修協力をしたのは、浜木綿子主演のおふくろシリーズの第16作。中途失聴後、手話などのコミュニケーションを覚えて立ち直る主人公を描いたもの。名無しだが、要約筆記役で出演した。

5月12日(日)10時～11時30分、赤羽文化センター第1視聴覚室において、小川光彦氏をお招きし、「NHK ドラマ デフ・ヴォイス裏話」と題して、ご講演いただきました。会員22名、非会員9名、合わせて31名の方にご参加いただきました。講演は、自己紹介と出演にいたるまでの経緯を話された後、参加者からの質問に答える形で進められました。

#### ★自己紹介・出演にいたるまでの経緯

栃木出身。幼少のころから聞こえにくかった。手話を覚えたのは28歳から。聴覚障害者運動に33年以上関わってきたが演劇経験はほとんどない。情報誌「いくおーる」の編集の仕事をしている。2022年5月頃、廣川麻子さんからドラマ出演の打診があった。オーディションの結果、片貝弁護士役に選ばれ、ビックリした。1年ほど待って、調布のスタジオで衣装合わせした。背広も4種類、

